

秩父税務署長賞

税金は悪なのか？

皆野町立皆野中学校 一年 太幡 琉美花

参議院選挙のニュースで、「消費税を下げる」「上げる」と、様々な意見があるのに気がつきました。聞いてみると、まるで税金が私たちの生活を苦しめる悪のようです。

そこで、どのような税があるのか、財務省のホームページで調べてみました。数えると、四十七種類あります。所得税のように、所得の多い人が多く納めてくれる税もあります。税の中で、収入が無い中学生の私でも払っているのは「消費税」です。今は八パーセントですが、今年十月に、十パーセントに上がります。千円の商品は千八十円だったのが、千百円になるのです。百円あったら、他に欲しいものが買えると思うと、ちよつと悔しい気持ちも正直あります。それが毎日の生活に直結してくるので、なんだか苦しい気持ちに、特に年金暮らしの高齢者はなるようです。

以前テレビで見たスウェーデンの消費税は、日本の三倍以上の二十五パーセントです。その代わりに社会保障が素晴らしく、老後は国が面倒を見てくれます。しかも寝たきり老人はゼロです。十八歳以下は医療費無料、成人しても年間一万円程度しかかかりません。子育て中の親は、仕事しながら子育てを優先するのが当たり前で、支援も充実していて、虐待で命を落とすような事件は少ないそうです。社会全体で助け合う精神があり、税金が高いという不満がなく、幸福度が高い国。それは、税金がすべての年代の社会保障に、目に見えてしっかり使われ、満足出来ているからだと思えます。私は先月、老人施設にボランティアに行きました。

人生を最後まで自分らしく楽しみ、施設でも自由なスウェーデンの活き活きとした高齢者とは、環境や意識が違ふと感じました。実は、私は、消費税引き上げは仕方ないと思っています。なぜならば、小学校の租税教室で見た、もしも税金が無かったらどうなるかという映像が脳裏に焼き付いているからです。道路はポロポロな危険な街。救急車も来ない。不安で不便な生活。今の私には想像もできません。そうやっては絶対困ります。

税金は出来れば払いたくないものです。それでも、一見悪役の税金は当たり前「快適で安全安心な生活」を支えている大切なもので、弱者の味方なのです。無くなって困るのは私たちです。そう考えると消費税は、みんなが平等に納めることができる税金なので、私のような中学生でも小さいけれども力になれます。小さな力でも、国民一人一人が納めれば大きな力になります。それは、少子高齢化が進んでしまった日本で、みんなを支え合うというすごい仕組みで、それは大切なことだと思います。だからこそ、税金は、みんなが納得できる平等な社会保障制度にしっかり使ってほしいです。税金は、弱者の味方、みんなのヒーローなのですから。